

バングラデシュと手をつなぐ会

ミロン

No. 84

NOVEMBER 2000

ミロンとは、「一つになる」「手をつなぐ」という意味のベンガル語です。

アジアの子どもたちの未来のために

Bangladesh と手をつなぐ会へ
あなたも参加してみませんか

「Bangladesh と手をつなぐ会」では、Bangladesh ・カラムディ村で、現地の村人による開発のための委員会「シヨングニ・シヨングスタ」と協力して、＜教育＞と＜医療＞の分野で次のような支援活動を行っています。

【教育】分野では…

将来を担う子どもたちの
教育の普及と向上のために

- ① 小学校の建設(1987～89年)とその後の運営支援
- ② 貧しくて学校に行けない子どもたちへの奨学金制度
- ③ 職業訓練(ミシン)で技術を身に付ける
- ④ 教科書図書館(教科書が買えない中学生のために、教科書の貸し出し)
- ⑤ 教育教材(特に理科など)学校設備の充実

【医療】分野では…

命と健康を守るために

- ① 母子保健センターの建設(1995年)とその後の運営支援
- ② 医療設備の充実
- ③ 緊急患者対応のために救急車の配備(1998年～)
- ④ 現地医師、看護婦のための訪日研修(1995～97年)
- ⑤ 出産前の女性への母親教室
- ⑥ 村の保健衛生向上のための巡回検診と衛生指導

国内活動では…

- ① 会報誌『ミロン』の発行
- ② 定例会の開催(いろいろな学習、イベントなどの参加型学習会)
- ③ 現地訪問の報告書作成と記録ビデオの制作
- ④ 現地訪問の報告(職場や地域などで)
- ⑤ チャリティコンサートおよびバザー
- ⑥ 総会(毎年4月、予算・決算と活動方針などの決定など)

その他、
夏の現地訪問
冬のスタディツアーを
行っています。

Bangladesh と手をつなぐ会

代表 大木松子

〒810-0004 福岡市早良区西新5-4-20

電話:092-844-1369 ファックス:092-781-9658

<http://www1.doc-net.or.jp/~minosaka/bangladesh-top.htm>

早いもので もう少しで12月……

ことしをふりかえると、現地訪問、手紙、報告など
カラムディ村の人たちとよい交わりができました。

ことしは特に若い人たちの訪問で楽しい日々が
過ごせました。

まだまだ問題は多いのですが これからも皆さまの
ご協力で 生活向上のための働きと楽しい交わりを
続けたいと思います。

ほんとうにありがとうございました。

よい お年を お迎え下さい

代表 大木松子

| NO.84 NOVEMBER 2000 | | もくじ |
|----------------------------------|----------------------------------------------|-----|
| P1. 大木代表より／もくじ | P8. 教育シンポジウム報告 | |
| P2～3. カラムディ村最新情報 | P8～9. 長崎でどんたく?! いえ、フェス ティバル／お願い | |
| P4. 白熱!! 現地訪問報告会／出来ま した! 報告書! | P10. NGO 相談を開始! / 仙台の Friends of Clara より | |
| P5～6. ダッカ訪問記「子牛の奨学金」 | P11. 会計報告 | |
| P6～7. カラムディ村訪問記「振り返っ 思うこと」 | P12. 今後の行事予定／編集後記／ 運営スタッフ募集 | |

カラムディ村最新情報



大洪水

9月20日に現地からFAXが入りました。

9月15日から断続的に雨が降り続き、またインドから山水が入り込んで大洪水になっている。それに加えて、嵐が強く、土で出来た沢山の家や樹木は倒れ、被害が大きい。こういう状況の中で、学校の校舎やレンガづくりの親戚の家に避難している人の数は少ない。食料や飲み水が不足しており、伝染病が広がるおそれがある…。

バングラデシュの南西部は普通大洪水になりにくい地域ですが、今年には例外でした。ヒマラヤの氷が溶けてインドに流れ込み、インドはダムの水をバングラデシュの方に放流。それとちょうど同じ時期に大雨が降り、大洪水になったのです。畑は水に浸かり、家畜のえさも穫れなくなりました。村の中心を走っているバス通りは浸水し、物資の運搬も不可能となり、人々の暮らしはとても厳しいものになりました。

この件について手をつなぐ会では、送られてきた情報が不鮮明でどのような対応がよいのか困惑しましたが、2年前に洪水募金として届けた一部を緊急用にストックしておくことを約束していたので、その中から1万タカを災害対策として使ってもらうように現地に知らせました。

現地では、医師と看護婦で医療チームを作り、学校を一時的なクリニックとして使い対応したそうです。また村を巡回し衛生指導も行い、避難をした人々には、パンや水を浄化させる錠剤を配布しました。さらに、DFIDBの援助を受けてショモタとシェテウという2つのNGOの協力を得て、シオンダニは、村と周辺の400世帯に対して、米10kg・豆1kg・サラダ油1リットル・塩1kg・5個の経口生理食塩水を配ったということです。しかし、壊れた家・道路・橋の建て直し、十分な食料の確保、伝染病の予防などの課題はたくさん残っています。



教育セミナー

学校間の情報交換や協力関係が、ここ数年の現地訪問での話題の一つ

になっています。昨年も今年も現地訪問で、小・中学校の先生や運営委員を集めて、これに関する話をしました。しかし、今もそれぞれがバラバラの教育を行っています。そこでシヨンダニは行政の力を借りて、9月9日に県教育長を講師に招き、村と周辺の先生や運営委員を対象とした地域の教育についての話し合いの場を設け、学校間の協力関係を促進させる努力をしました。(講演内容の詳細は分かりませんが、こういう活動によって教育の質が少しでも上がればいいなと思います。)



MCH スタッフの入れ替え

今年5月末、母子保健センター(MCH)開設以来勤務されていたノルジャマン医師が退職し、後任にロコン医師が着任されました(詳しくはミロン前号 NO. 83 をご覧ください)。今年の現地訪問の後、ロコン医師は結婚したのですが、彼の奥さんやお母さんは彼が田舎の村に長期滞在することに反対し、家の近くの都会の病院に就職が決まり、わずか3ヶ月でMCHを後にしました(8月30日付けで退職)。お疲れ様でした。NGO活動にも豊富な知識を持った医師であっただけに残念だったのですが、幸運にも後任の医師はすぐに見つかりました。99年にRangpur Medical collegeを卒業した27歳のゴラム医師です(9月1日付けで着任)。現在、医師は彼と今年4月末から勤務しているサイド医師の2名です。また看護婦ですが、現地訪問の時には2名の正看と2名の准看が勤務していました。しかし、外来・病棟・巡回をこなすには4人ではとても少ないのです。そこでゴラム医師の採用と同時に看護婦を1名雇用しました。名前は、マルタ・シュンドリ・モンドル。以前ロコン医師が勤務していたミッション病院で3年間の教育を受け、准看の資格を持っています。また彼女は村より17~8キロ離れた村の出身者。長くMCHに勤務してくれることを期待しています。



Bangla 豆知識 → ラマダン(断食)

国民の8割以上がイスラム教徒のバングラ。大事な行事がラマダン。健康な大人は正当な理由なしに、昼間の飲食は一切出来ません(日の出前と日没後に飲食)。これが29日もしくは30日続く。そしてラマダン開けは「イドユール・フィットール」。この日は全国一斉にお祈り。人々は実家に帰り家族や親戚と再会。人の移動が激しく交通機関はかなりの渋滞。そして今年のラマダン開けは、12月末。例年スタディーツアーを実施している時ですが今回は延期に。詳しい日程は背表紙を。



去る10月22日、アクロス福岡の会議室において、2000年度の現地訪問報告会が行われました。今回訪問に参加したメンバーそれぞれが（残念ながら神奈川在住の森さんだけが、この報告会には参加できませんでしたが）自分の担当した活動について報告しました。初めて「バングラデシュと手をつなぐ会」の活動を見に来られた方への説明や、一部白熱した報告で、後半時間が足りなくなてしまいましたが、現地でのあつ〜い体験やスタッフの思いは、かなり伝わったのではないかと思います。

前述したように、今回初めてこの会の活動に参加された方が何人もいらっしゃったのは、本当に嬉しいことでした。バングラデシュについてあまり知らない方も、ますます興味を持ってくださったようです。これからもいろんな方々が参加して下さるといいな、と心から思います。皆さんもぜひ、たくさんのお友達を誘って、報告会やバザーをのぞきにいらしてください！また、報告会に参加され

たみなさま、本当にお疲れさまでした。

(臼井 久美)



報告会に参加できなかった会員の皆さん、現地の様子がびっちり詰まった報告書が完成しました。その名もズバリ、

『現地訪問の報告 2000』

です。今回のミロンと一緒にお届けしていますので、ぜひぜひお読み下さい。そして、何かご意見などございましたら、事務所の方にご連絡下さい。今後の参考にさせていただきます。

また、会員以外の方で、「報告書を読みたいわっ」「読んでみたいぞっ」「読んでみようかしら」「読んじゃえっ」（しっこい？）と思われた方には、

①郵送の場合：送料込み 300円

②直接の場合：200円（にのさか

クリニックにて）

で販売致します。ぜひお買い求めください。よろしくお願ひ致します。

「子牛の奨学金」

事務局 宇治松枝

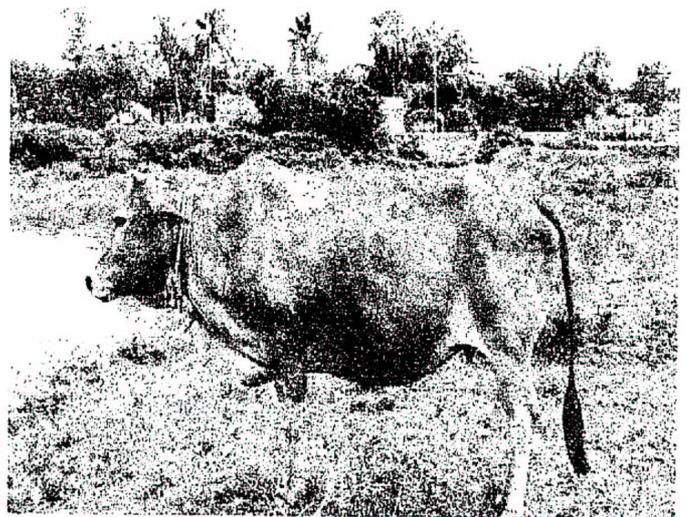
この度、11月3日から5日間バングラデシュの首都、ダッカを訪ねてきました。ストリートチルドレンを支援しているバングラデシュのNGO組織「オポロジェヨ・バングラデシュ」の視察と小学生に奨学金として子牛を貸して育てさせ、親牛になって子牛を産んだら生まれた子牛を返してもらうというユニークな子牛の奨学金システム「JABA Student Help Foundation」の創始者アラムさんと子牛を育てている子ども達に会ってきました。

今回は子牛の奨学金について報告します。

i

きっかけ

このプロジェクトの創始者シャヘ・アラムさんは現在32歳、JABA TOURS (Japan Bangladesh Friendship Tours) を経営しながら無給で幼稚園、小学校、図書館と子牛の奨学金も運営をしておられます。日本には10年間ほど滞在経験があります。首都ダッカ近郊の農家で育ちましたが決して裕福な家庭ではなく、独立戦争のあとだんだん家は貧しくなる一方で小学2年生のときはドン底だったとか。彼も働きながら学校へゆきました。そんな貧しいアラムさんがぼんやりと考えていたことは「もっと学校があったらなー」ということ。学校を建てるなんていうことは当時の彼には夢のまた夢でしかなかったそうです。その後、彼の発案で始めた船着場でルティーを作って食べさせる小さなレストランがあたって少しずつ生活が楽になり大学へも進学し、そして日本へ。日本の大学で勉強中にもら



った奨学金は学校を建てるために全て貯金し、日雇いや、ベンガル語の講師をしながら生活費と学費はまかかったそうです。そうして94年にバングラデシュに帰り、自分の資金だけで幼稚園、小学校、図書館を建てました。教育方針は「お金に負けない人間（お金だけの人間にならないように）、人に迷惑をかけない人間を育てること」。アラムさんの人生そのものといった感があります。

ii

子牛の奨学金

そんなアラムさんが考え出したのが子牛の奨学金です。子どもを育てるためには教育が必要。しかし、貧しい家庭の子どもを学校に行かせつづけるためには、家計の助けにもならなければならない。そこで浮かんだアイデアが子牛でした。子牛は1頭約8千円、これを小学2年生にあたえて育てさせると3年後には子牛を産んで牛乳が売れるようになる。そのお金で中学校の学費（月6百円～千円程度）を払う。

牛乳を売ると半年間くらいは月1万円以上になる。（1ℓ約50円）。牛乳が出る8ヶ月間は現金収入が毎日あることになる。学費を払っても家計の足しになるし、毎日牛乳が飲めるので家族の健康にも良い。牛は10年前後生みつづけることができるので、最初の一頭は返してもらって次の子の奨学金にするが、その後生まれた子牛はすべて家族のもの。貧しさから遠い上がることができ、子どもをさらに上の学校へ行かせることもできる。というもの。

iii

さらなる広がり

子牛を育てることは簡単ではないので裕福な家庭の子どもはお金だけの奨学金と違ってほしがらないのだそうです。7年生（中2）の子どもを訪ねたとき、その子は夕食を作っているところでした。すぐそばで牛が草を食べていました。その牛が産んだ子牛は隣の子どもが育て、すでに8ヶ月の子牛がいました。「借金も返せだし、牛乳も飲んで、子どもは勉強ができる。父親も仕事ができる。夢のようだ。」と母親は話していました。父親は日雇いをしています毎日仕事はありません。子どもが学校へ行っている間、牛の世話をする仕事できてよかったのでしょう。アラムさんは子牛の奨学金を実行する人たちがバングラデシュ中に広まって貧しい子ども達も教育を受けられるようになることを願っておられます。

カラムディ村訪問記

「振り返って思うこと」

福岡教育大学大学院 矢野孝明



カラムディ村に7月終わりから約1ヶ月間滞在しました。はじめての訪問となったバングラデシュですが、ダッカの空港に降り立った瞬間、その衝撃の大きさは今でもよく覚

えています。

空港の外はどこを見ても人の山。道路には、向こう側が見えないくらいオートリキシャやリキシャが所狭しと行き交い、排気ガスの臭いが鼻をつきます。しかし農村へ近づくほど、その光景は変っていき、カラムディ村は自然に満ちあふれた非常にのどかなところでした。どこまでも続く緑の大地、道には人間よりえぼって牛が歩いています。夜は宝石箱をひっくり返したかの様に星がきれいです。そんな自然環境の中に住む人たちは本当に心が優しく、時には私の手をひっぱってまで家に招待してくれたり、私を村の住民の一人として最後まで面倒を見てくれました。私自身、帰国が近づくにつれ「本当にこの村に住んでみようかな」と、そんな思いに駆られる毎日でした。村での生活は毎日新しい発見の連続でした。「ベンガル人になりきる」という目標を掲げ、痛いくらいの日差しの中、一日中村を飛び回っていました。



村に長く滞在した私ですが、その報告としてこれだけは伝えたいということがあります。「バングラデシュは決して貧しくありません」これは胸をはって主張したいことです。素晴らしい自然の中で、日本人とは比べものにならないほどの温かい人々がそこにはいます。確かに生活していく上で不便な点、まだまだ改善しなければならない問題は山積みです。その改善、克服のためにも「手をつなぐ会」「シオンダニ・シオンスタ」の草の根の活動は、村人たちからの期待もとても大きいものでした。でも根本的なものは変わってほしくないんです。その点を念頭に置きながらこれからもバングラと付き合っていきたいと思います。

9月定例会 **教育シンポジウム**

「**地域が育む、地域が育つ**—**バングラデシュからの提言**—」

2000年9月9日(土) 13:30-16:30 **アクロスこくさいひろば**

主催：バングラデシュと手をつなぐ会&地球共育の会ふくおか

共催：NGO福岡ネットワーク

後援：福岡市教育委員会

「地球共育の会ふくおか」との共催で、昨年に引き続き2回目の教育シンポを行ないました。今回は3名の方をパネリストに迎え、『教育における地域の役割』を考えてみました。

手をつなぐ会のラフマンさんは、カラムディ村の村人たちが学校建設や教師のボランティアなどを自発的に行っている様子をお話し下さいました。

前原市立南風小学校教諭の高瀬雄大さんは、新興住宅地の小学校が地域内の交流をリードしている様子をお話し下さいました。

地球共育の会の吉野あかねさんは、イギリスの開発教育センターが地域の人々を巻き込みつつ、身近な開発問題に取り組んでいる様子をご紹介下さいました。

内容がかなり幅広くなってしまい、司会としてまとめきれなかったことに反省しきり…しかし、教育は学校の中だけでなく、地域や家庭も含めていろいろな場でなされるものなのだな、と実感できたシンポジウムでした。教育シンポは今後も定期的に関わりたいと考えています。

報告：古賀 南

長崎でどんたく?! いえ、フェスティバル!!

バングラデシュの母子保健センターを支援する会 河内英一

(財)長崎県国際交流協会の主催による、国際交流週間「ながさき国際協力・交流フェスティバル」が、10月29日(日)に、長崎港常盤・出島埋め立て地区にある「にちらん広場」で実施され、私達「バングラデシュの母子保健センターを支援する会」も参加しました。このフェスティバルは、日頃、国際交流や協力活動に携わっている各種団体が参画し、みんなが気軽に参加できる催しを通して、その活動を広くアピールし、国際交流のすそ野を広げる目的で昨年から開催され、私達は今年からの参加となったわけです。(福岡で先月行われた「地球市民どんたく」と同じような催しです)



心配だったお天気も…

かたい説明はこれぐらいにして、当日、手前味噌ながら、私達の普段の行いが悪いようで本当はいかに良いかが証明されました。前日まで降り続けていた雨が止み、当日

は曇りへと変わり、無事予定通り行われたからです。悪天のせいで、会場の地面がぬかるんでいたのと、当日は中止と自分勝手に思い込んでたスタッフの到着が遅れたので、準備が私一人でやるはめになったことが、計算外でしたが・・・。



嬉しい発見の日！

当日は、30以上の団体が集まり、地元でこんなに多くの民間国際交流団体があることに驚くと共に、県の外郭団体が主催してくれていることに、社会的認知も得られ、今後の活動に広がりや自信が湧いてきました。「にちらん広場」で同時開催の植木市に来た人達も、沢山いらして下さり、国際交流に関心が有る無しに関わらず、ステージで繰り広げられる音楽や踊りなどを楽しみ、また留学生が作る本場のインドカレーなどを味わい、五感を満足させてくれる一日でした。約4.5畳のブースをあてがわれた私達は、バングラデシュの民芸品販売や引出物の不用品販売、それと募金を行いました。



やっぱり最後は…

反省点として、日頃商売に関わっているスタッフが多いので、つい販売に力が入り、広報活動が二の次になったことです。そんなこんなで、朝10時から夕方4時まで、アツと言う間に過ぎ、長崎港からふいてくる風が疲れた体に心地よく感じられ、その晩飲んだ生ビールは「ドライ」なのに、心はウェットでした。

お願い

住所が変更になった時は お知らせ下さい

会員の皆さま、そしてミロンをご覧の皆さまへ

転居や職場の異動などで、ミロンの郵送先の住所が変わった時にはご面倒ですが、新しい住所をバングラデシュと手をつなぐ会事務局までご連絡下さいますようお願い致します。

バングラデシュと手をつなぐ会 事務局

NGO相談を開始！ FUNN(NGO福岡ネットワーク)

NGO福岡ネットワークでは、『国際協力』についてのさまざまな相談を受けられる体制が整い、8月1日より相談受付を開始しました。

相談受付日時：火曜日～土曜日 午後1時～6時

場所：福岡NPO共同事務所 “びおとーぶ”

通信での受付：電話 092-526-9620(びおとーぶ内)

FAX 092-526-9620

途上国でボランティアをしてみたい！

学校の授業で国際協力を取り上げたい！

世界のNGOの動きを知りたい！

そんな質問に、専門の相談員や、ネットワークに参加する15の団体のメンバーがお答えします。

国際協力に関心のある方、これからはじめてみたい方、お気軽にお問い合わせください。どんどん活用してくださいね。

仙台の Friends of
Clara より

シンポジウム記録 「グローバルパートナーシップって、いったい何だ！？ —バングラデシュの人々とわたしたち—」

4月に行われた、仙台の Friends of Clara による表記シンポジウムの記録集ができ、バングラデシュと手をつなぐ会に送られてきました。バングラデシュからソーシャルワーカーのクララさんという女性を招いて、彼女を中心に二年間の活動を行ってきた、Friends of Clara。その活動の集大成ともいえる記録です。深い内容を感じました。

「…私が期待しているのは、皆さんと一緒に将来に対して期待を持ち、この社会やこの世界をよい方向へ変えていくということです。…皆さんが自分がどういうことをしたいのか、何を学び取るかによってそれが変わってくるのです。…単に考えるだけではなくて、具体的な活動をすることをお勧めしたいと思います。私が信じていることは、愛を行うことは、平和を行うことです。…私たちの人生というのは、お互いにつながり合って、お互いを必要としています。…希望を持って将来のために何かをしようではありませんか。そのように自分を勇気づけてください。」(クララさんの最後の言葉より。)

事務所においてありますので、どうぞ自由にごらんください。

(二ノ坂)

バザーのご協力、ありがとうございました！

11月19日(日) 前回同様、福岡市早良区野芥の「にのさかクリニック前駐車場」にて、チャリティー・バザーを行いました。

バザー前の数日間は雨振りが続いていましたが、当日は天候も回復し、多くの方が会場に集まってくださいました。

収益金は、64,475円 でした。

今回も多くの方々から販売品の提供をいただきまして、どうも有難うございました。

また、値段付けの準備や、当日の販売、差し入れなど、多くの方のご協力に心から感謝申し上げます。

収益金は前回と比較すると約半額ほどでしたが、これは今回の開催日が多くの人にとって給料日前だったということが影響したのかもしれない。

次回はそのようなタイミングを考慮に入れて、計画したいと思っています。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

～ 会 計 報 告 ～

(11月22日現在)

新会員紹介(敬称略)

- 会 員 ・柳原 富枝
- 協力会員 ・金光 英雄 ・前田優一
- ・小川篤美 ・谷口光子
- ・山路 英子 ・吉川 徹
- ・北島 弥太郎

旅費カンパ協力者(敬称略)

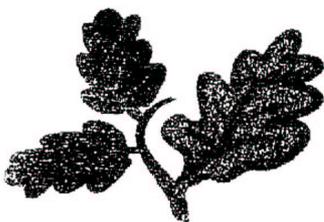
- ・加茂 節 ・山下 久代 ・瀧本 康子
- ・大場 フミ

教育募金協力者(敬称略)

- ・箕迫 高明 ・中路 カヲル
- ・北山バプテスト教会：枝光 泉
- ・佐藤 莞治 ・竹田 照 ・上尾 龍介

募金協力者紹介(敬称略)

- ・富田 桂子 ・山田 樹途美 ・福元 国次
- ・福岡花ライオンズクラブ ・山元 康成
- ・野芥商工連盟会 ・教育シボゾム参加者
- ・高瀬 雄大 ・バザー参加者 ・川野 直人
- ・地球市民どんたく参加募金配分金
- ・台 麻理子 ・今給黎 靖子 ・山崎 博敏
- ・福本 トミ子 ・井上 稲子 ・合澤 英夫
- ・大浦 エミ子 ・松田 純子 ・箱田 恵子
- ・池田 久良治 ・早良更正園 ・田中 寛
- ・二瓶 温子 ・松村 祐二郎 ・松下 竜一
- ・井手 喜怒子 ・村里 やよい ・山谷 朗
- ・にのさかクリニック窓口募金
- ・芳澤 弘和 ・荒川 裕子 ・井口 ミツノ
- ・田代 修通 ・中村 恵子 ・近沢 敬一
- ・古木 広子 ・大塚 サエ子 ・藤吉 タツ



どうも有難うございました！

岩切篤子

今後の行事予定

(変更される場合があります。ご確認ください。)

| 月 日 | 時 間 | 内 容 | 場 所 |
|--------------|-------|---------|-----------|
| 1 2月 7日 (木) | 1 9時～ | 事務局会議 | にのさかクリニック |
| 1 2月 14日 (木) | 1 9時～ | 運営委員会 | 西新事務所 |
| 1 月 11日 (木) | 1 9時～ | 事務局会議 | にのさかクリニック |
| 1 月 25日 (木) | 1 9時～ | 運営委員会 | 西新事務所 |
| 2 月 1日 (木) | 1 9時～ | 事務局会議 | にのさかクリニック |
| 2 月 15日 (木) | 1 9時～ | 運営委員会 | 西新事務所 |
| 2 月 19日 (月) | 1 9時～ | ミロン印刷作業 | にのさかクリニック |
| 2 月 22日 (木) | 1 3時～ | ミロン発送作業 | 西新事務所 |

(ボランティアのお願い)

発送作業を2月22日(木) 13時から2時間程度お手伝いいただける方を募っています。簡単な作業で、おしゃべりをしながらできます。事務所または宇治(TEL・092-781-9658)へご連絡ください。

編集後記

2000年も残りあとわずかとなりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。21世紀なんて遠い未来だと思っていたのに、もう目の前です。この調子で22世紀を迎えることにはならないでしょうが、なんだかんだで、時は過ぎていくんだね。とりあえず、なんだか分からないけど今年区切りの年ですが、カラムディ村への協力は区切ることなく続行していきませう。いませう。21世紀もどうぞよろしくお願い致します。(D)

運営スタッフ募集

あなたも、手をつなぐ会の運営西員になりませんか?

只今、手をつなぐ会では運営スタッフを募集しています。もちろん、NGO活動初めて!という方でも大歓迎です。定例の会議(事務局会議・運営委員会)に参加してみませんか?興味のある方は事務所またはにのさかクリニックにご連絡下さい。お待ちしております。

入会のご案内

Bangladesh と手をつなぐ会に あなたも参加してみませんか？

「 Bangladesh と手をつなぐ会」では、 Bangladesh ・カラムディ村の
＜教育＞と＜医療＞への協力活動を支えてくださる会員を募集します。

- 会 員 会の運営にかかわり、手伝いたい方：総会での議決権を有します。
会費： 月額 500円（年額6000円）
- 協力会員 会の趣旨に賛同し、協力する個人または団体の方。
会費： 一口月額1000円（年間12,000円）…何口でも結構です。
- 会費振込先 郵便振替口座 01720-2-10442
加入者名 Bangladesh と手をつなぐ会

入会をご希望の方は、以下の用紙にご記入の上、郵送またはファックスでお送りください。

きりとり

Bangladesh と手をつなぐ会：入会申込書

申込み年月日 年 月 日

フリガナ

氏 名 _____ (男・女)
生年月日 明・大・昭・平 年 月 日 (才)
職 業 _____ (差し支えなければご記入ください。)

住 所 郵便番号 _____

電話・ファックス _____

(会員 協力会員)として入会を申し込みます。

会費は _____ 年 _____ 月分 から _____ 年 _____ 月分までの

円を (直接 郵便振替で)納めます。

「奨学基金」募金キャンペーン2000

バングラの子どもたちに学びを！

奨学基金は

バングラデシュ・カラムディ村の子どもたちの

- 1、中学生、高校生、大学生の奨学金に
- 2、教科書を貸し出す「教科書図書館」の本題に
- 3、小学校、中学校の教材、設備の補充に

使われます。

どうぞ、ご協力をお願いします

募金のあて先は 郵便振込み 01720-2-10442

加入者名 バングラデシュと手をつなぐ会

2001年 バングラデシュ

春のスタディーツアー

参加者募集

とき：3月24日（土）～4月3日（火）予定

費用：17万円 予定

募集締め切り：2001年1月31日

募集人員：10名（事前研修あり）



毎年恒例のスタディーツアーにあなたも参加してみませんか？
自然がいっぱいのカラムディ村で、子ども達と遊んだり、バザールを
のぞいたり・・・、満天の星があなたを待っています。

問い合わせ先

事務所

TEL 092 (844) 1369

FAX 092 (781) 9658

にのさかクリニック

福岡市早良区野芥4-45-55

TEL 092 (872) 1136

FAX 092 (872) 1137